

## 過去の受賞者一覧

年度	受賞者・団体	受賞理由（受賞当時）
平成11年度	大塚亮治	能・狂言面及び創作面の製作者として活動。ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアなど世界各国からも高い評価を得ている。
平成12年度	島田市書道連盟	市民の芸術・文化の振興のための先導的立場にたち、市民への書写普及や学童の国語力、漢字能力の向上に貢献している。
平成13年度	前原満夫	日本美術院の院友であり、日本画の最高峰としての位置付けを持つ院展に11回入選、春の院展に10回入選を果たし、日本美術院の奨励賞を3回受賞するなど、その実績と将来性は高い評価を受けている。
平成14年度	一言良一郎	研ぎ出し蒔絵、平蒔絵、沈金彫り等の伝統的な蒔絵技術に異素材の金属板を取り入れるなど、独自の技法を生み出し、意欲的に展開している。また、日本美術院の会友として活躍し、その技術と洗練されたセンスは高く評価されている。
	八木小絹井	市内の小中学校において、邦楽実技指導を積極的に行うなど、普及に努力している。また、和・洋音楽を巧みに取り入れた独創的斬新な演奏を試みるなど演技面においても高く評価されている。
平成15年度	羽根田英世	画家として、会社勤務の傍ら、中央展や静岡県芸術祭賞、富嶽文化賞展での受賞など、数多くの公募展において受賞歴がある。また、島田市美術家協会会長として会員の指導にあたるなど、市内の美術家集団の第一線に立って活躍されている。
平成16～19年度	推薦なし	
平成20年度	横山八千代	平成7年から小説家として活動を開始。以後、積極的な著作活動をおこなっている。平成14年から集英社コバルト文庫において、奈波はるか名義で『少年舞妓・千代菊が行く！』シリーズが刊行され、平成20年10月末時点で28作を数える。また、累計売上部数は発行元調べで105万部となっており、中高生を中心に、全国において読者を獲得している。
平成21年度	松井妙子	島田市金谷に在住する染色画家として、故郷をこよなく愛し、地元島田の風景を折り混ぜた風景画を作成している。これらの風景画は、島田市を薫風のごとくさわやかな、なごみのあるイメージとして多くの人々にとらえられており、染色画を通して島田を市内外に広く紹介している。また、地元学校への絵の寄贈や新聞コラムの執筆、詩画集出版、茶業界雑誌表紙絵などを行っている。
平成22年度	推薦なし	
平成23年度	山本晶子	島田市出身のマリンバ・打楽器演奏者として、全国各地で活躍をし、コンクールや演奏会においても業績を挙げている。市内においても、公演等を積極的に行っており、パーカッショングループ「フラワービート」を主宰し、母校である島田第二中学校をはじめ市内学校において演奏を行い音楽文化の振興や次代を担う若者の指導等に努めている。
平成24年度	池田幸広	島田市出身のチューバ演奏者。島田第二中学校から高等学校、音楽大学、大阪市音楽団を経て、日本を代表するNHK交響楽団の一員となり、音楽家として数々のコンクールや賞を受賞し全国各地で活躍をし、業績を挙げている。マスメディア等の出演や島田市内においても公演等を行っており、島田市の音楽家や次代を担う若者に希望と夢を与える芸術文化活動を行っている。
平成25年度	川崎公代	声楽家としての音楽活動及び児童合唱団等の指導など青少年への教育活動を行っており、子ども達の可能性を引き出し、夢を共有した活動は有意義なものであり、島田市の芸術文化における貢献は大なるものである。

平成26年度	山城道也	人物をモチーフとした作品で知られ、二紀展や富嶽ビエンナーレ展入選など数多くの受賞歴を持つ。2002年以降は、東海道金谷宿大学油絵講座の教授を務めており、創作のほか、後進の育成など市の芸術文化活動のリーダーとして活躍が期待されている。
平成27年度	宮村弦	島田市出身の墨象作家。若くして、毎日書道展の毎日賞を獲得するなど多くの受賞歴がある。また、海外でも作品展を開き活躍の場を広げている。前衛書以後の書作家として、抽象表現による書の制作を中心に発表を重ねる。書の美意識の大胆な解釈によって描かれる同時代的な表現は、文字・墨象、手法・媒体を問わず書の外側の領域にまで広がりを見せている。
平成28年度	榛葉樹人 榛葉薫人	両氏とも、まだ30代と若いが声楽家として十分な実績があり、地元でのコンサートを行うだけでなく、市内中学校での芸術鑑賞教室等で次代を担う子ども達に夢と希望を与えている。
平成29年度	推薦なし	
平成30年度	鈴木啓資	ピアノソロ、ピアノデュオ、アンサンブル、オーケストラと多岐にわたる演奏活動を、国内外で精力的に行っている。島田市におけるクラシック音楽の普及・振興のため、アウトリーチ演奏や主に中学生を対象としたオーケストラのリハーサルの公開等にも取り組んでいる。